

柱となる3つの事業

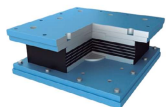
オイルレス工業は、祖業であるオイルレスベアリング（すべり軸受）のほか、構造物の免震、制震に貢献する構造機器、火災による煙から命を守る排煙・換気用窓の開閉装置などの建築機器を製造している

軸受機器



当社の祖業であり、現在は
金属・樹脂・複層と豊富なオ
イレスペアリングをラインア
ップしている。

構造機器



大きな地震から人々の生活を守るために構造物の免震、制震に貢献している。

建築機器



火災による煙から命を守ることから始まり、換気による快適な空間の実現に役立っている。

と自負しています。

**インドに第2工場を建設
成長市場に積極投資**

25年度に過去最高の売上高688—9億円を計上されています。業績好調の理由について教えてください。

坂入 24年度にスタートした中期経営計画で、次世代の飛躍的成長を実現するために、成長市場へ経営資源を全力投入するという経営方針を掲げました。その成果が着実に表れたものと評価しています。

具体的には、AIの急速な普及によって需要が高まっている半導体製造装置向けや、地球温暖化対策によって長期的なトレンドが期待できると再生可能エネルギー関連の軸受を成長領域と位置付け、積極的な事業投資を行っています。

自動車軸受は、インドや中国などの現地メーカーへの営業を強化し、売り上げが大きく伸びました。EV車における航続距離延長や積載バッテリー重量増に対する高荷重高耐久性能が求められるなど、新たなニーズが取り込めると見込んでいます。

グローバル事業も積極的に展開しておられるんですね。

率は約4割に達しました。

今後は、成長市場であるインド、中国での事業をさらに拡大していきます。その布石の一つとして、インドで第2工場を建設中です。時代のニーズに合わせた自動車産業の変革に対応していきます。

100周年に向けて 第4の事業を生み出す

——株主還元方針についてお聞かせください。

坂入 配当性向40%以上を目標としており、26年度は前年度から10円増配の年間95円を予定しています。

より多くの方に当社のファンになっていただきたいの思いから、株主優待の内容も充実させました。

——今後は、どのような成長戦略を描いているのでしょうか。

坂入 27年3月に創立75周年を迎えますが、既に100周年を見据えた成長戦略を描いています。来年を第2の創業と位置付け、これまでの3事業に続く、第4の事業を生み出したいと考えています。

従来の3事業は、我々の先輩たち

がチャレンジ精神を持って生み出したものです。その精神を受け継ぎ、次の時代に求められる新たな事業を創り上げたい。

具体的には、3600以上ある特許を再点検して、価値がある技術を開き起こし、他社との協業も含めた活動や社内公募制度によって、新規事業のアイデアを創出することにも取り組んでいます。

—— 次の時代を担う人材の育成も重要テーマですね。

坂入 新しい技術を生み出すのも、事業を発展させるのも人の力です。その力を強化するため、この3年間に教育制度と評価制度を見直しました。従業員意識調査などから、チャレンジする風土が出来上がりつつあるという手応えを感じています。

—— 最後に読者にメッセージをお願いします。

当社の製品は一般の方の目に触れにくい。縁の下の力持ち。な存在ですが、産業や社会を支える社会貢献性の高い事業を担っていると自負しています。

ニッチな領域ですが、当社の存在価値に共感いただき、1人でも多くの方に応援していただければ幸いです。

産業と社会を支える
縁の下の力持ち

半導体、EV向けが好調
潤滑油を必要としない
ベアリングで
産業や社会に貢献

潤滑油を必要としないオイルレスベアリングを日本で初めて開発し、国内外で高いシェアを誇るオイルレス工業。半導体製造装置や自動車向けの販売が好調で、2025年度には過去最高の売上高を更新した。インドで第2工場を着工するなど、グローバル戦略にも積極的。“100年企業”に向けた成長戦略について、代表取締役社長の坂入良和氏に聞いた。



オイレス工業
代表取締役社長 坂入 良和

軸受、構造、建築の
3つの事業を展開

——2027年に、会社創立75周年を迎えられるそうですね。

坂入 創業者の川崎宗造が会社を立ち上げたのが1952年。さらに歴史を遡ると、20年代に川崎が日本初のオイルレスベアリング（すべり軸受）を開発したのが当社のルーツです。当時、専売局（現・日本たばこ産業）に勤めていた川崎が、米国製のタバコ巻き上げ機の中にあつた「油を必要としない軸受」からヒントを得て技術確立しました。社名の「オイルレス」は、製品の特徴であるオイルレスに由来しています。

一般的にベアリングと言えば、中に小さな玉が入ったボールベアリングを連想すると思いますが、当社のオイルレスベアリングは軸と面が直接接し合う構造になっており、滑りを円滑にする材料を含ませて被膜を作り出すことで摩擦と摩擦を抑えます。

——ボールペーリングと比べて、どんなメリットがあるのでしょうか。

坂入 部品点数が少ないため、小型軽量化を実現できる点がメリットです。また、様々な環境で使用が可能

です。さらに、潤滑油を使わないのでメンテナンスフリーであることや、環境負荷が小さいことなども特徴ですね。

——どんな用途に使われていますか。

など、産業と社会を支える幅広い用途に用いられています。近年では、半導体製造装置やEV（電気自動車）、再生可能エネルギー関連として、水力発電の水門や水車、洋上風力発電の浮体設備や係留設備向けにも採用されています。

海中のような厳しい環境でも使用でき、油を使わないので海洋環境の保護にも貢献できるということです。引き合いが増えています。

——事業ポートフォリオを教えてください。

坂入 祖業である軸受事業は、一般軸受事業と自動車軸受事業の2つのセグメントに分かれています。

他に、軸受の研究開発で培ったトライボロジーとタンピングの技術を応用して、建築物の免震・制震装置を手掛ける構造機器事業、排煙・換気用窓の開閉装置などを製造・販売する建築機器事業を展開しており、3事業の構成です。

——独自の強みは何でしょうか。